木崎中通信

新潟市立木崎中学校

令和５年度　前期学校評価

生徒会スローガン

happiness

～ともに創る最高の思い出～

コロナ禍が徐々に収束し，落ち着いた学校生活が展開されています。本年度の生徒会スローガンは『happiness ～ともに創る最高の思い出～ 』として，全員が幸せを実感できる学校にしていきたいという想いが込められています。

教育目標**「自ら学び　自ら考え　生き方を求める生徒」**の達成に向け，**「今日も楽しかった」とすべての生徒が言える学校**づくりを，昨年度に引き続き推進しています。また，本年度のキーワードを『笑顔』とし，そのために**「学習がわかって楽しい！」「仲間との活動が楽しい！」「貢献することができて嬉しい！」**と実感できる教育活動に取り組んでいます。また，木崎小・木崎中で目指す子どもの姿として，**「しなやかで，たくましい児童生徒」**を掲げています。４月から 10 月初めまでの前半，目標はどのくらい達成されたのか，成果と課題は何か，生徒・保護者・地域の方々・教職員はどのように感じているか等をまとめ，「前期学校評価」としました。よいところ，がんばっているところは取組を継続して，さらに伸ばしていきます。足りないところ，できていないことへは，根気強く取り組み改善を図ります。生徒一人一人の成長を目指し，後期も前期以上に取組を推進してまいります。

前期学校評価アンケートの結果より

学校教育ビジョンで掲げている「学習がわかって楽しい」の肯定的割合が９３％，「仲間との活動が楽しい」の肯定的割合が９６％，「貢献することができて嬉しい」の肯定的割合が９６％と高い数値を記録しました。しかし，すべての生徒に実感できていないのが現状です。すべての生徒が肯定的評価になるよう取組を進めていく必要があり，学級活動や生徒会活動を活性化して，支持的風土を醸成していきます。また，「自分にはよいところがある」「将来の夢やつきたい仕事があります」などの設問では，肯定的割合が５％程度増加しています。「地域の大人とあいさつしたり，言葉を交わしたりしています」の地域とのかかわりの項目においても，肯定的割合が９１％でした。家庭学習における項目では，「宿題以外にも自主的に家で勉強しています」の肯定的割合は８９％であり，昨年度より２％向上しています。一方で，平日の学習時間の調査では，６０分未満と答えた生徒が３５％（昨年度２４％）であり，家庭学習の充実が課題となっています。

目指す資質・能力を育成する授業の質的な向上

学校評価アンケートの結果（肯定的評価の割合）

（生徒）学校生活は楽しい。

昨年度前期　93%	→	昨年度後期　97%	→	本年度前期　94%

（生徒）友達のよいところを見つけたり、友達が落ち込んでいるとき、励ましたりしています。

昨年度前期　95%	→	昨年度後期　95%	→	本年度前期　94%

（生徒）先生方は自分の努力を認め、励ましよくないことをしたときには注意してくれる。また、悩みや相談にも親身になって応じてくれます。

昨年度前期　97%	→	昨年度後期　95%	→	本年度前期　95%

（保護者）お子さんは、好ましい交友関係があり、学校へ楽しく登校している。

昨年度前期　90%	→	昨年度後期　97%	→	本年度前期　99%

（保護者）木崎中学校の生徒は、社会や学校のルールをきちんと守っている。

昨年度前期　94%	→	昨年度後期　98%	→	本年度前期　96%

（職員）生活アンケートややりとり帳などを活用し、教育相談などの機会を捉え、生徒の悩みや相談に応じることができた。

昨年度前期　100%	→	昨年度後期　93%	→	本年度前期　100%

成果	基礎学力の定着を図るために，今年度は基礎プリント（５教科）に取り組み，ステップアップの時間などを活用し，既習事項の確認などに取り組んでいます。授業では話し合う活動を積極的に取り入れ，生徒同士の学び合いを重視し，生徒の主体的で協働的な学びに重点をおいて指導しています。 家庭学習においては，「宿題をきちんとやっている」の肯定的評価は昨年度前期より４％向上し，９２％になりましたが，「宿題以外にも自主的に家で勉強しています」は昨年度前期よりも６％下がりました。
課題	「普段の学習では，友達同士で話し合う活動を行っている」と回答した生徒は９５％と高い割合ですが，「授業で，自分の考えを進んで伝えています」と回答した生徒は６６％と低くなっています。話し合い活動の中でも，自分の考えを伝えていく場面設定が必要だと考えています。主体的・協働的な学びの中で，積極的に自分に考えを伝えていく，粘り強く取り組んでいく力を身に付けさせるように指導していく必要があります。
後期の方策	**・前期と同様に基礎プリントによる基礎学力の定着を図ります。ICT を活用した学習の充実のために，職員研修で ICT を活用したアプリの運用の研修を継続的に行っていきます。** **・定期テスト前の自習教室や学び合いタイムを導入することで，学習の支援や基礎学力の定着を目指します。** **・主体的・協働的な学びを充実させるために研修を継続的に行い，授業改善に取り組んでいきます。**

自立を促す生徒指導の推進

学校評価アンケートの結果（肯定的評価の割合）

（生徒）学校生活は楽しい。

昨年度前期　93%	→	昨年度後期　97%	→	本年度前期　94%

（生徒）友達のよいところを見つけたり、友達が落ち込んでいるとき、励ましたりしています。

昨年度前期　95%	→	昨年度後期　95%	→	本年度前期　94%

（生徒）先生方は自分の努力を認め、励ましよくないことをしたときには注意してくれる。また、悩みや相談にも親身になって応じてくれます。

昨年度前期　97%	→	昨年度後期　95%	→	本年度前期　95%

（保護者）お子さんは、好ましい交友関係があり、学校へ楽しく登校している。

昨年度前期　90%	→	昨年度後期　97%	→	本年度前期　99%

（保護者）木崎中学校の生徒は、社会や学校のルールをきちんと守っている。

昨年度前期　94%	→	昨年度後期　98%	→	本年度前期　96%

（職員）生活アンケートややりとり帳などを活用し、教育相談などの機会を捉え、生徒の悩みや相談に応じることができた。

昨年度前期　100%	→	昨年度後期　93%	→	本年度前期　100%

成果	昨年度に引き続き，複数の教職員が様々な場面で生徒一人ひとりにかかわりながら，良さやがんばりを認め，生徒の成長をサポートしています。各授業をはじめ，昼休みや放課後の活動など，学年の枠を超えて生徒の活動を見守っています。それが『先生方は自分の努力を認め，励まし，よくないことをしたときは注意してくれる。また，悩みや相談にも親身になって応じてくれます。』の項目につながっていると考えます。 学校行事では生徒会本部，委員会，部活動を中心に準備，運営を行っています。仲間とともに全力で取り組む，行事を創りあげる経験が『学校生活が楽しい』『友達のよいところを見つけたり，友達が落ち込んでいるとき，励ましたりしています』の項目での肯定的評価につながったと考えます。
課題	「平日にメディアを１日にどのくらい利用しているか」の設問では，１時間以上の生徒は，電子ゲームが 48%，YouTube などが 61%，テレビ，ビデオ，DVD が 61%と高い傾向がみられます。
後期の方策	**・アセス（学校環境適応感尺度），教育相談等を活用し，個々に必要な支援を全職員で共有していきます。** **・メディア利用の弊害についての学習やノーメディアデーの取組をとおして，メディアとの適切な関わりを推奨していきます。** **・欠席日数の多い生徒について，保護者との情報交換をより一層深め，外部機関との連携を進めていきます。**

多様な学びを保障する特別支援教育の推進

学校評価アンケートの結果（肯定的評価の割合）

（保護者）学校は、自分の子にあった支援をしている。

昨年度前期　93%	→	昨年度後期　92%	→	本年度前期　85%

（保護者）教師は一人一人を大切にし、生徒や保護者に対して親身になって対応したり相談したりしている。

昨年度前期　96%	→	昨年度後期　96%	→	本年度前期　89%

（職員）個別の支援計画を短期目標を持ちながら、計画・見直しすることができた。

昨年度前期　71%	→	昨年度後期　89%	→	本年度前期　80%

成果	生徒一人一人の現状に即した，個別の教育支援計画・指導計画を作成し活用していきます。懇談会では，保護者と一緒に計画を確認し，見直しを行いました。職員全員で，個別の目標や支援内容について共通理解を図ったり，情報交換を行ったりして，生活面や学習面の変化を見落とさず，適切な支援ができるように心掛けています。保護者アンケート結果では，肯定的な意見をいただきましたが，より一層保護者の皆様と連携を深めて教育活動をすすめていきます。
課題	保護者の皆様からは，より生徒の実態に応じた学習課題を期待する声をいただきました。個別の支援計画・指導計画については職員研修をとおして全て見直しを行いました。今後も見直しの機会をもち，共通理解のもと，教育活動を進めていきます。特別支援学級・通常の学級問わず，ご家庭との連携のもと教育的ニーズに合わせた支援と丁寧な対応を心掛けます。
後期の方策	**・教育相談や学校生活アンケートなどの生徒の声や，日常生活の様子に寄り添って，学校生活を楽しく送れるように支援していきます。** **・特別支援学級では，生徒と過ごす時間を大切にし，より深く理解することで一人一人の教育的ニーズに合わせて，個別支援をしてきます。** **・学校での生徒の様子をご家庭に伝えるとともに，連携を大切にしていきます。**

学校運営協議会との協議から（抜粋）　１０月１１日（水）会場：木崎小

（学習指導）　授業で学習用端末の利用が増えている。上手に使える子どもとそうでない子どもの差が出るかもしれない。学習支援の地域ボランティアなど，学校で子どもたちのサポートをする人がいると充実する。

（生徒指導）　メディアについて。一日の中でゲーム機，スマホ，テレビ，さらにタブレットとなった場合，子どもがメディアに触れる時間がかなりになる。学校でも取り組んでいるので，保護者も同じように我が子のメディアコントロールを行ったり，保護者も一緒に学べたりするといい。

（地域連携）　地域教育コーディネーターの不在が続いている。保護者と学校，地域と学校の協働はこれからさらに重要となる。コーディネーターの後任を地域でも考えていく。